

みんなからみんな

第6号
発行 2015年8月15日
九州教区
東日本大震災対策小委員会



会津放射能情報センター

の日々

会津放射能情報センター代表 片岡輝美さん

会津放射能情報センターは、二〇一二年七月、若松栄町教会の教育館に立ち上げられました。九州教区では、同センター代表で若松栄町教会員の片岡輝美さんを二〇一二年の教区総会時にお招きし、講演をいただきました。その後、各地区の集会などにもおいでいただいています。また、同センターに、視察のため委員を派遣したり、支援献金をお送りしたりしながら、協力関係を作り出したいと願ってきました。センターの最近の様子についてご寄稿いただきました。

会津放射能情報センターは1台が一言、「2台目の測定器があれば、目の食品放射能測定器GDM15をもっと調べられるんだけど...」。2011年10月に導入し、米、魚、野菜、水、土壌など約2300回の測定を重ねてきました。1検体1kgを20分測るとおおよそのセシウム134と137の数値が得られます。しかし、さらに詳しく正確に調べるためには最短90分は必要。ですが、そうすると1日の測定回数は限られてきます。ある日、スタッフ

用が全国からの協賛金により無料になったからです。昨年9月までは一検体千円でしたが、測定毎に同額が「食品測定基金」に納められます。つまり、みなさんの協賛金により、私たちの食の安全が確認されているのです。今年3月末、再びEMS（ドイツ連帯福音宣教会）から支援をいただき、2台目GDM15を購入しました。

■今日も測って安全を確認

今朝も、測定担当者が大きな箱を抱えてセンターに出勤。「今日は何を測るの？おいしそうなカツオ！大丈夫だったら、叩きにして食べたいね」と私。「輝美さん、残念ながらミキサーに掛けますから、『つみれ』ですね」と、スタッフ。初夏には福島の名産モモを測定。安心できる数値だったので、コトコト煮詰めジャムになりました。しかし、時には残念な結果も出てきます。ご近

所から頂いた立派な蕨は18ベクレル/kg。確かに政府が出す基準値100ベクレルよりは、かなり低い数値ですが、暫し考えた後に諦めました。汚染されているのを分かっている必要はない。しかし、東北の春の到来を山菜の味覚で感じる経験を、子どもたちは未体験のまま育っていくのでしょうか。

■運動着や制服の測定

食べ物だけでなく、子どもの衣類の汚染状況を知りたいとの声がありました。原発事故以降、真実を知る怖さを繰り返し経験し、さらに子どもの環境を直視することに緊張を覚ええました。小学生の運動着15着とリュックサック6袋が集められ、細かく裁断し測定へ。結果は現実を知ることになりました。重さ1kg換算のリュックサックから、セシウム134、137合算で平均24・6ベクレル、最大30・6ベクレルが検出されました。事故前に使用されていたナップサックは不検出です。運動着は平均15・1ベクレル、最大はこちらも30・6ベクレル検出。恐らく砂埃などでズボンは上着より大きい数値が検出。全て洗濯済みのものですが、繊維の中に入り込んでいると考えられます。ベクレルとは、1kgまたは1平方メートル毎秒飛び出している放射線の数を示します。運動着は1kgもありませんが、子どもが毎秒確実に放射線を浴びているということが分かりました。小学生の制服からは61・9ベクレルが検出。母親は、不安を覚えながらも、経済的な負担で制服を新調しなかった自分を責めています。

事実を知る不安、しかし、現実を知ることです。生命を守ることができません。聖書の言葉「知る力と見抜く力を身に付けて、本当に重要なことが分かる」を日々私たちは実感しているのです。



シウム134、137合算で平均24・6ベクレル、最大30・6ベクレルが検出されました。事故前に使用されていたナップサックは不検出です。運動着は平均15・1ベクレル、最大はこちらも30・6ベクレル



支援活動かよう

◆2014年度の東日本大震災報告

集会は、2月17日(火)、九州キリスト教会館にて、開催されました。参加29名。講師は、福島市から福岡県福津市に避難し、京都府在住の宇野朗子さん。テーマは「原発事故のなかに・・・事故四年に想うこと」。

どのような思いで、どのようにして福島を離れたのか、ということや、汚染地域の現状など、写真を見ながら、お話くださいました。静かな語り口でしたが、語られる言葉の一つ一つが、心に響いてきました。

講演は「わたしたちにできること」を挙げて締めくくられました。すなわち、「被ばく受忍強要にノーを」「東京電力原子力災害の責任追及を」「各地で原発再稼働にストップを」「次の大地震に備えて、使用済み核燃料などの安全管理を」。



宇野朗子(うの さえこ)さん

出席者に、郡山から福岡県に避難している子ども連れの女性がいました。こどもを安心して屋外で遊ばせることができることなど良かった反面、残った仲間への心配や、避難生活の疲れやストレスなど、今の複雑な思いを率直に語られました。

質疑応答では「教会に期待すること」として教会のネットワークの強さが挙げられました。そしてさまざまな形で、被災者とながり続けて欲しい、特に、保養は、これから後、何十年も取り組まなければならぬ重要なプログラムであるので、是非支援して欲しい、と語られました。

また、宇野さん自身はキリスト者ではないけれど、教会の祈りや聖書の言葉に触れて救われる瞬間があった、と言います。震災関連死、特に自死も増えていることから、被災者の深い魂の悩みを耳を傾けてもらいたい、と語られました。

九州の地で、これからできること、なすべきことについて、多くのことを教えられました。

◆東日本大震災四周年追悼記念集会は、3月10日(火)に開催されました。竹内款一委員が「奥羽教区、岩手沿岸の被災地を巡って」と題して

報告し、祈りの時を持ちました。参加37名。

◆2014年度の支援献金は合計50口、総額965,538円でしました。多くの方々から献金をお寄せいただきました。

ありがとうございます。昨年度の収入は、前年度繰越金と合わせて約444万円。支出は、被災教区への直接支援80万円(奥羽

など約154万円で、2015年度に約290万円の繰越ができました。後述するように、息長く働きを継続していきたいと考えていますし、

第7次ボランティア募集

仮設住宅での諸作業、入居者の方々との交流、被災家屋・田畑や漁業の復興作業、現地ワーカーのための支援など被災地のニーズは多様化しています。幅広い経験をもった方々が求められています。どうぞ、ご応募ください。

派遣先: 東北教区被災者支援センター(仙台市)
 派遣期間: 各自でお決め下さい。
 ただし 3日以上ワーク可能な方
 派遣補助: 教区より一人5万円
 作業内容: 外ワーク、仮設住宅での活動、こどもプログラム、夕食ボランティア等
 お問い合わせ: 委員長 新堀真之
 (香椎教会 092-661-3419)
 詳しくは募集要項をご覧ください。



仮設にお住まいの方々とのお花見

被災された方々の要請に応じて、新しいプログラムも行おうともしています。今年度も支援献金への協力をお願いいたします。

◆2014年度は8名の方々を東北教区被災者支援センターエマオに派遣しました。困み記事のように、第7次ボランティア派遣を開始しました。応募をお待ちしています。

◆東北教区放射能問題支援対策室(かずみとタイアップした短期保養プログラムを今年度中に行うべく準備に入っています。被災地から何組かの親子をお招きすることになります。広くご協力をお願いします。◆親子でゆつくりと過ごしていた

◆今期(2015年度・2016年度)、東日本大震災対策小委員会の委員として、新堀真之(香椎教会・委員長)、西岡裕芳(福岡警固教会・書記)、竹内款一(長崎銀屋町教会・会計)が選任されました。これまで同様、祈りつつ、皆様と共に、被災された方々、被災教会、被災教区に思いを寄せて歩みたいと願っています。どうぞ、お覚えください。ようにお願いいたします。

